みなさん、こんにちは。古賀市議会議長のぬま健司です。第２７回古賀市文化協会芸術祭の開催にあたり、議会を代表して一言ご挨拶申しあげます。

結城会長をはじめ古賀市文化協会の皆様には、文化活動を通して、心豊かに暮らせる地域づくりにたいへんご尽力いただいております。

今回の芸術祭も、講師・指導者の先生方の芸能発表や、美術展、茶道や盆栽展示などが行われ、多くの市民の方が感激され、また堪能されたことと思います。

文化芸術の輪が確実に大きな波紋となって広がっています。あらためて敬意と感謝の気持ちを表します。ありがとうございます。

昨日サンフレアの２階で書や陶芸、絵画、写真などを鑑賞させていただきました。会場で目に入ったのは「志ある者は事ついに成る」の書でした。古賀竟成館高校の名前の「竟成」の由来です。

この書を見ながら、文化協会の志、私たちの志は、必ずや波紋となって広がり、人と人がつながる活力ある地域づくりを成し遂げることができると感じた次第です。

政治家の言葉は本来、国民、市民に希望や勇気を与えるものでなくてはならないと思います。しかし最近は、残念ながら一部の政治家の言葉が人を傷つけたり、外国の人々に不快感を与えたりすることが見受けられます。あらためて政治家はその歴史観や人権感覚をしっかり持たなければならないと痛切に感じます。文化・芸術が心を慰め、生きる勇気を与えてくれるように、政治家は自らが発する言葉、メッセージにもっと責任を持つべきです。

私は昨日、５月１８日に議長に就任してちょうど２年がたちました。１９人の議員が任期の折り返しを迎えました。どのような古賀市の将来ビジョンを目指すのか、真剣な議論と実践が今まで以上に求められていると思います。今日は食品工業団地で「モノづくり博・食の祭典」開催されています。地域経済の活性化と住民福祉・教育の充実など古賀市らしい取り組みを着実に推進しなければなりません。

心豊かに暮らせる古賀市、人と人がつながる活力ある古賀市のために、文化芸術の創造・継承は大きな課題です。研修棟の建て替えを含む生涯学習推進拠点ゾーンの整備は当面する最大の事業といえます。

私たち議員は、文化協会をはじめ文化活動に取り組まれる多くの市民の皆さんの声をしっかり受け止め、今後の取り組みに反映していきたいと思います。

結びに、第２７回芸術祭の開催にご尽力いただいた皆様に心より感謝申し上げますとともに、文化協会の益々のご発展と皆様のご健勝、ご多幸を心より祈念申し上げ、挨拶といたします。

　本日は誠におめでとうございます。